

江田島市関係団体ヒアリングシート回答集約結果

【1】 保育園・認定こども園対象調査

【調査の概要】

調査区分	保育園・認定こども園対象調査
調査対象	各施設の代表者又は責任者
調査方法	郵送配布・郵送回収によるヒアリングシート調査
調査期間	令和元(2019)年6月
調査数	6件

【回答者属性】

施設の名称	在籍 児童数	設立	所在地	教育・保育方針（概要）
認定こども園 えたじま	156人	平成30年	江田島 小学校区	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが健康・安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにする。
切串保育園	27人	昭和56年	切串 小学校区	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康・豊かな感性や思考力、豊かな表現力を育てる。
認定こども園 のうみ	93人	昭和25年	鹿川 小学校区	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康の基礎を培い、子どもの欲求を適切に満たし、情緒の安定を図る。 言葉への興味関心を育て、喜んで話したり聞いたりすることができるように豊かな言語力を培う。 人に対する信頼感を育て、自主・協調の態度を養い道徳性の芽生えを培う。 多様な生活経験を通して、豊かな心情を育て、思考力の基礎や創造性の芽生えを培う。
中町保育園	46人	昭和25年	中町 小学校区	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの発達課題を的確に把握し子どもが安定感・信頼感を持って安全に活動できるように環境を整え保育していく。 保護者との密接な連携のもと大人と十分な愛着関係を形成し安全・安心・安定した生活ができるようにしていく。
認定こども園 おおがき	131人	昭和24年	大古 小学校区	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的に“自己発揮”できる子どもを育てる」 子ども一人ひとりが安心して成長し、『自立』できるよう支援する。

施設の名称	在籍 児童数	設立	所在地	教育・保育方針（概要）
三高保育園	35人	平成8年	三高 小学校区	・子どもが、現在をよりよく生き、望ましい 未来を創り出す力の基礎を培う。

1 市内の子育てを取り巻く環境について

問 市内の子育てを取り巻く環境を大まかにとらえた場合、現状、どのように感じ
ていらっしゃいますか。最近5年間くらいの変化を踏まえ、ご意見・ご感想を
ご自由にお聞かせください。

- ・延長保育・一時保育の利用が増加。
- ・多文化共生が進む傾向にある。
- ・就活での入園や1号から2号へ移行と、就労のニーズが高くなっている。
- ・援助が必要な子どもを支援していけるような環境づくり
- ・保育士の確保。
- ・島ならではの地域性を生かした「くらし体験」が減り、スマホ等でゲームや動画を見て過ごす子どもが増えている。
- ・登園・降園時間が一定ではなく、園児が一斉に活動できる時間が限られる。
- ・子育てが苦手で、どのように子どもを育ててよいか分からない保護者や、家庭で生活習慣や社会のルール等を教わっていない子どもが増えている。保護者、子どもに対してきめ細やかな、保育が必要となってきた。
- ・保護者が子どもと接する時間が短い。子どもとのふれあいを大切にしてほしい。
- ・無償化導入で今以上に子どもと親の距離が広がるのではないかと不安。
- ・育休を短縮して、早期に職場復帰する人が増えている。
- ・低年齢児（0～1歳児）は母親の愛情が必要な時期。子育て放棄の傾向も見受けられる。
- ・安全に遊ぶ場所が少ない。
- ・保育を保育園に任せたり、タブレットに子守をさせたり、保育園が長時間預かることにより、親子の関わりが少なくなった。
- ・療育施設が少なく、専門的な支援が受けにくい。

2 直面している問題点や困っていることについて

問 それでは、貴園が教育・保育事業を進めるに当たって、直面している問題点や困っていることがありますか。（運営面，人材確保面，地理的条件，所在する地域の少子高齢化，交通事情など。）

- ・課題のある子への支援が難しい。支援を要する子が多く，保育士の人数にゆとりが欲しい。
- ・保育士の確保が難しいようならば，給食関係や環境整備を手伝っていただける用務員が欲しい。
- ・1号認定の子が先に降園するのに伴い，混乱する子どもがおり職員が対応に追われる。
- ・少子化で各クラスの人数が減り，4～5歳児の集団での遊びや関わりが持ちにくい。
- ・0～1歳児の途中入園が増え，それに対応する保育士の確保が難しい。
- ・保育士の振休，延長保育の対応，研修・出張などの調整が難しい。
- ・規模が大きく，人数も増えたことにより，異年齢児との関わりが持ちにくい。
- ・遊戯室が狭く，行事のときに保護者が入れない。
- ・園が次々統合され，地域との幅が広くなりすぎ密な関係が築きにくい。
- ・外国人の保護者が多く，意思の疎通が図りにくい。
- ・園外保育に出かけるとき，安全に歩ける場所が少ない。
- ・建物や遊具が老朽化しており危険。
- ・在籍人数によって予算が決まるため，必要なものが買えない。
- ・年度途中の入園児に対応できるだけの保育士が確保できていない。

3 保護者のニーズ及びニーズへの対応について

問 保護者の教育・保育事業に対するニーズ（園に対する要望等）についておたずねします。保護者は貴園に対して，どのようなことを求めていますか。また，ニーズに対してどのように対処していますか。

- ・子育てを支援する環境，保護者との信頼関係。参観や懇談などを通じて子育ての相談に応じる。
- ・色々な体験をさせてほしいというニーズに対して，リズム遊びや園外保育などを実施。
- ・人との関わりを経験させてほしいというニーズに対して，異年齢との関わりや集団遊びを実施。
- ・「こども園で長い時間見てほしい」「少し体調が悪くても預かってほしい」「仕事がない日も預かってほしい」「（乳児の保護者は）しつけ面，排泄面等の基本的な生活習慣を園で身につけさせてほしい」「保育士から優しく接してほしい」といったニーズがある。ニーズに対しては，できる限りの支援をしている。
- ・病時保育の充実。（各園に看護師を配置するなど。）

- ・保育参観日を設け、子ども園での様子を見たり、懇談会で担任と子どもの成長について話せたりする機会がほしいというニーズがある。保育参観日は9月、2月に予定。個人懇談会も実施。
- ・三高地区の1号の子どもが、以前は地域の保育園に入園できたが、現在は他の地域の子ども園にしか入園できない。この件は園では対処できない。

4 今後、施設として積極的に取り組むべき施策や事業について

問 今後、貴園が、子育て支援として積極的に取り組むべき施策や事業は、どのようなことだと思いますか。

- ・途中入園児を受け入れるための職員体制。
- ・保育参加・運動会など、親子のコミュニケーションの場を多く持つ。
- ・技術のスキルアップと保護者に対する支援など、保育士の資質の向上を図る。
- ・個性を伸ばす関わりや、気になる子への支援など、一人ひとりに応じた子どもの発達の支援。
- ・特色のある保育を追及する。
- ・食育（菜園活動）の経験を通じて、心身共にたくましい子どもを育成する。
- ・「ほけんだより」を通じたプチ情報の提供。
- ・菜園活動や一緒に育て・作る・食べる楽しさを伝える食育の推進。
- ・保護者に対して、子育ての大切さや子育ての仕方などを伝えられる施策を考えたい。
- ・安全な環境づくり、補修しなければならない箇所の確認。
- ・外国人の保護者の要望を受け、意思の疎通を図る。

5 今後、江田島市が力を入れていくべきことについて

問 それでは、江田島市は、これからどのようなことに力を入れていくべきと思いますか。

- ・発達への支援や保護者への支援をしていくための環境づくり。
- ・乳児の増加に対応できる職員体制の充実。
- ・自然に触れる実体験の場や施設を増やす。
- ・保育士や専門家による、保護者の子育て力を伸ばす学習の機会の充実。
- ・誰もが住み続けたいと思える、子育てしやすい魅力的な江田島市づくり。
- ・「認定こども園」への予算の増加。
- ・保育士の登録を積極的に進め人材を確保する。
- ・病児保育事業への人員加配、利用方法の簡素化。

6 その他の意見

問 このほか、ご意見やご要望等があれば、ご自由にご記入ください。

- ・子育て支援課に、例えば再任用の保育士等を置き、病児保育や途中入園、職員の休みが重なった際に対応する。
- ・保護者、保育士の愛情の中で育ち、生きる喜び、夢を持てる子を育てたい。
- ・個性をしっかりと伸ばせる環境づくり。
- ・心身共にたくましい子を育てる。
- ・保育士の資質向上とスキルアップが必要。臨時職員の研修不足の解消とレベルアップ。
- ・メディア育児の危機への対応。（目が合いにくい、手・足・体の発育が不十分で、よく転ぶ、じっとできない、言葉の育ちの遅れなど。）
- ・たくさんの種類、大切にできるように傷んだものでなく、新しい絵本が欲しい。
- ・子どもの体力づくり等のため、のうみの新園舎に土手がほしい。
- ・3歳以上児の保育料無償化が何のための支援か疑問です。
- ・保育士の人材確保をお願いしたい。
- ・一時保育の利用者はほとんどが0～1歳児で。この場合も保育士の人材確保が必要である。

【2】 放課後児童クラブ・児童館等対象調査

【調査の概要】

調査区分	放課後児童クラブ・児童館・子育て世代包括支援センター対象調査
調査対象	各施設の代表者又は責任者
調査方法	郵送配布・郵送回収によるヒアリングシート調査
調査期間	令和元(2019)年6月
調査数	11件

【回答者属性】

施設の名称	在籍児童数	所在地
三高児童クラブ	22人	三高小学校区
江田島第一児童クラブ	36人	江田島小学校区
江田島第二児童クラブ	57人	江田島小学校区
切串児童クラブ	9人	切串小学校区
中町児童クラブ 中町児童館	33人	中町小学校区
高田児童クラブ 高田児童館		中町小学校区
鹿川児童クラブ	41人	鹿川小学校区
大古児童クラブ	63人	大古小学校区
柿浦児童クラブ 柿浦児童館	6人	大古小学校区
津久茂児童館		江田島小学校区
子育て世代包括支援センター		

1 市内の子育てを取り巻く環境について

問 市内の子育てを取り巻く環境を大まかにとらえた場合、現状、どのように感じていますか。最近5年間くらいの変化を踏まえ、ご意見・ご感想をご自由にお聞かせください。

- ・小学校の廃校が続いているが、残った施設が生かしきれていない。
- ・設備の充実した公園が少ない。
- ・親子関係の希薄化（愛情不足）。
- ・しつけができていない。親の教育が必要。
- ・児童の自立を促す支援（生活習慣として学習時間を確保している）と、保護者の希望する支援（宿題を全部やらせてほしい、勉強を教えてほしい、公文などの勉強もクラブでやらせてほしい）では考え方が違う。
- ・6年生まで受入れ可能となったが、1人で留守番ができない、バスに乗れない、帰宅できない児童が増えた。
- ・年々児童数が減っている。
- ・急激な人口の減少、外国人労働者の増加。
- ・ひとり親家庭の増加。
- ・通院・通学・買物など、自家用車がないと生活できない。
- ・フルタイムで働く母親が多く、保育園や児童クラブで長時間過ごす子がかなり増えている。
- ・親離れ、子離れができない環境。保護者同志のつながりが表面的で希薄。
- ・共働き世帯が増え、児童クラブ入会児童が増加している。今後も児童クラブの役割が重要。
- ・地域や近所の人たちとのつながりが減り、子育てしにくい環境になってきた。

2 直面している問題点や困っていることについて

問 貴施設が教育・保育事業を進めるに当たって、直面している問題点や困っていることがありますか。（運営面、人材確保面、地理的条件、所在する地域の少子高齢化、交通事情など。）

- ・支援員・主任の意識統一が必要。支援員の年齢層が偏っている。若い人材の育成が必要。
- ・6年生までの受入れになったが、宿題をさせるために利用する親が多い。
- ・支援員は嘱託職員なので1年更新で5年までしか働けない不安定さがあり、将来不安。
- ・基本的な運営は支援員に任されているが、担当課が現場をなかなか見てくれない。
- ・共働き家庭や父子・母子家庭など核家族化を背景に、放課後児童クラブの利用者は増加していく一方で、児童数に対して支援員数が足りないと思う。毎年、募集がかけられているが、応募者は少ない。
- ・支援員の運営で職員の視察・指導を行ってほしい。
- ・他施設とのミーティング（話し合い）の場が少ない。

- ・人材確保面では、保育経験者の雇用や支援員の質の向上など。
- ・行事を実施しても参加者が少ない。
- ・対象児童が6年生までとなり、利用児童数が増えている。
- ・小学校内の図書室1部屋での活動は大変窮屈である。交通の便が悪く、保護者の送迎が必須。
- ・人数に対しての設備ができていない
- ・支援員を確保してから児童の受入れをしてほしい。
- ・警報が出たときは、子どもは自宅待機なので、午後（13時～17時）の利用は全くない。利用がないのに開ける必要があるのか考えてしまう。
- ・子育て世代包括支援センターは、道路沿いに看板がないため場所が分かりにくく、通り過ぎてしまう利用者が多い。駐車場が整備されていないため、雨の日はドロドロになってしまう。整備をお願いしたい。

3 利用者の話から出る悩みや不安について

問 貴施設の活動において、参加者や利用者の中から、よく話に出る子育ての悩みや不安としては、どのようなことがありますか。

- ・高学年になると、子どもは児童クラブに行きたがらない。
- ・反抗期への対処、学校での人間関係、障害についての心配事、ゲーム、習い事の送迎、宿題のこと。
- ・子育ての悩みを話す場がない。多様化
- ・子どもの褒め方、叱り方が分からない。
- ・保護者より「ほかの小学校と比べ宿題量が少ない」「教員の質」。
- ・施設（児童館）を見学に来られる方はいるが、車やバスの便がないため子連れでは不便。
- ・例えば「イヤイヤ期」への対応など。
- ・公園が少ないため、遊ぶ場所がない。

4 保護者のニーズ及びニーズへの対応について

問 保護者の事業に対するニーズ（施設や事業に対する要望等）についておたずねします。保護者は貴施設に対して、どのようなことを求めていますか。また、ニーズに対してどのように対応していますか。

- ・保護者の安心、子どもの安全。
- ・単に時間や空間を過ごすだけでなく、プラスαの支援を望んでいる。
- ・できることは柔軟に対応している。
- ・5月の連休中仕事なので開所してほしいと要望があった。
- ・学校の宿題や公文など、全てをクラブで終わらせてほしいというニーズに対して、クラブでの学習時間は生活習慣の定着が目的であることを説明し、声掛けをすると話している。

- ・保護者が子どもを預け、安心して就業するため、楽しく、友だちと仲良く、安全に1日を過ごすことを考えている。
- ・学校の課題（宿題）をできるだけ終わらせていること。
- ・長期休業中の保育。
- ・児童クラブは「生活習慣を身につける場所」なので、声掛けや質問の相談は受けるが、宿題の確認は保護者をお願いしている。
- ・宿題を全部こちらに任せっきり。自分の子どもの宿題の確認は家庭でもらいたい。
- ・親子のコミュニケーション。親同士のコミュニケーションの場として活用されている。
- ・話を聞き、不安を取り除けるよう心掛けている。
- ・過ごしやすいよう清潔な環境づくりを保っている。

5 今後、施設として積極的に取り組むべき施策や事業について

問 貴施設の事業に、もっと多くの子どもや親子に参加してもらうために（又は円滑に利用してもらうために）どのような取組が必要と思いますか。

- ・もっと多くの・・・とは思わない。
- ・入会が本当に必要な家庭だけ受け入れてほしい。その中で、家庭とクラブと学校で連携して育てていけたら良いと思う。
- ・児童クラブは小学校にも協力してもらい、毎年、全家庭へ入会申込書を配布している。新1年生には、入学説明会へ支援員が参加し、児童クラブの説明や申込書の記入方法の説明を行っており周知され利用しやすいと思う。
- ・系列施設のイベントチラシの掲示（案内）。
- ・児童館の活動や利用方法など、広報紙等を活用した周知が必要。
- ・人数や学年に応じて部屋数を増やす。
- ・おやつや水分の提供。
- ・休校時に開所すること。
- ・イベントは、子どもが好きそうな行事を職員同士で計画する。
- ・毎月の広場（イベント）の情報などをメール配信する。
- ・「れんらっこ」の登録者を増やし、参加者が増えるようにする。

6 今後、江田島市が力を入れていくべきことについて

問 それでは、江田島市は、これからどのようなことに力を入れていくべきと思いますか。

- ・出産までに親としての責任、子どもへのしつけ等、親を育てる家庭教育に力を入れる。
- ・子育ての経験者との座談会。
- ・悩み等、相談できる場所をつくる。
- ・勉強や習い事の学習など、任せきりにせず、家庭での子どもとの関わりの大切さ、上手に子育て支援施設を利用するよう保護者に伝えてほしい。

- ・ネグレクトが疑われる児童（家庭）に関しては、関係機関との連携を強化する。
- ・人手不足の解消のための労働条件の見直し。
- ・継続して長期的に働ける環境づくり。
- ・有資格者・無資格者それぞれに対する処遇のあり方を検討する。
- ・お年寄りと子どもの交流がしやすい場所づくり。
- ・少子高齢化、人口減少に対応した子育てのあり方を考える。
- ・指導力のある人材、自ら成長しようとする意欲のある人材の採用。
- ・親への支援。まず、親が落ち着いて、心身共におだやかな生活ができるようにすること。
- ・仕事を確保し、Iターン、Uターン者を増やす。
- ・他市町から「田舎留学」として小中高の受入れをする。
- ・こども園を保育型ではなく、幼稚園型とし、年長のこどもへの就学前のひらがなの練習など、幼児教育に力を入れてほしい。
- ・ファミリー・サポート・センターの導入を検討してほしい。

7 その他の意見

問 このほか、ご意見やご要望等があれば、ご自由にご記入ください。

- ・みんなで遊べる大きな公園・施設をつくる。
- ・職員全員が市民となれる江田島市の創造。
- ・アンケートだけではなく、実際に足を運んで見に来てください。
- ・施設の海側に、素敵な芝生があるのに、遊具がないため、外で遊びたい子どもの要望に答えられない。えたじまこども園の遊具が目に見えるため、遊びたいという子が多数いる。